

「道徳性」や「規範意識」の芽生えは 幼児期から！

【 幼児教育の大切さについて 】

幼児期は、心身の発達著しい時期であり、人間として成長する基礎を築く時期です。そのため、幼児期の教育は、家庭教育を基盤として幼稚園や地域社会など、幼児が生活するすべての場で行うとともに、それぞれが十分な連携を図り、学習や人間形成の基礎を培うことが重要です。

また、幼児教育は、就学後の小学校での生活や学習の基盤を培う役割も担っています。そこで、子どもの発達特性、生活や学びの連続性を考慮しながら、幼児期に育てるべきことをしっかり育てることが重要です。

近年、自分自身の感情や欲望をうまく抑えたりコントロールしたりする気持ち（自制心）や規範（人間が行動したり判断したりする時に従うべき価値判断の基準）を守り、それに基づいて判断したり行動しようとする意識（規範意識）、そしてコミュニケーション能力の低下など、子どもの育ちにおける課題が指摘されています。

こうした状況をふまえ、幼児期では、教師や友達との集団生活を通して、気付いたり感じたりする様々な体験により規範意識や道徳性の芽生えを培うことが大切です。

道徳性や規範意識の芽生えを培うための視点

基本的な生活習慣
の確立

きまりやルールを守る力
の育成

命を大切にする心
の育成

判断力の育成

思いやりの心
の育成

イメージする力
(想像する力・考える力)
の育成



～ 幼児期に必要な体験 ～

- ① 人に愛される体験（親・教師・地域住民 等）
- ② 人とかかわる体験（家庭・園・地域で）
- ③ 感動体験（価値あるものとの出会い）
- ④ 葛藤体験（思い通りにならないこと、自他の違い）



【家庭教育を基盤として幼稚園や学校・地域社会が連携した取組が必要！】